事　業　報　告

（令和５年４月１日から令和６年３月３１日まで）

Ⅰ．会社の現況に関する事項

１．当事業年度における事業の経過及びその成果

当期は、北陸新幹線の金沢・敦賀間開業に伴い、ＪＲ北陸本線のうちの金沢以西の県内区間の経営を引き継ぐため、全社員一丸となって取り組んだ１年でありました。ＪＲ西日本はもとより県・沿線自治体はじめ関係各位の皆様のご支援もいただきながら、令和６年３月１６日に無事県内全線開業を迎えることができました。

一方令和６年１月１日１６時１０分頃に能登半島で発生した最大震度７の大地震は、奥能登を中心として県内に広く甚大な被害をもたらしました。幸い当社線の被害は小さく、２日後の３日午後には富山方面の通常運行を再開できたところであります。また当社線に乗り入れる「ＪＲ七尾線」、その先に繋がる「のと鉄道」での被害規模は大きく、当初は復旧の見通しも立たない深刻な状況であったが、関係者の懸命な復旧作業により「ＪＲ七尾線」は２月１５日に、「のと鉄道」では４月６日に全線運行再開されたところであります。

こうした令和６年の年明け早々の未曾有の大震災が発生した令和５年度であったが、猛威を振るっていた新型コロナウイルス感染症も年度初め頃には下火となり、５月上旬には感染症法上の位置付けが５類に移行、負の影響は漸減し、回復の遅れていた定期外利用も、夏から秋の観光シーズンには順調に回復し、コロナ禍前に迫る利用状況で迎えた年末でありました。しかしながら元日の震災により状況は一変。ＪＲ七尾線の長期の運休や、被害の甚大さによる自粛ムードなどもあり、人流が大幅に減少、１月の利用者はコロナ禍水準まで落ち込みました。

このような状況の中、県が実施した「能登のために、石川のために　応援消費おねがいプロジェクト」などの効果もあり、徐々に人流は増加し、２月以降のご利用は前年並みに回復する中で迎えた３月１６日の県内全線開業日でありました。

当日は金沢駅、小松駅、加賀温泉駅の３駅において自治体と連携した県内全線開業を記念した出発式を実施するとともに、能美根上駅、松任駅、野々市駅に加え、開業と同時に供用を開始した西松任駅では、地元自治体主催の開業イベントが実施され、駅周辺には多くのお客様がご来場いただき賑やかな雰囲気の中、順調なスタートが切れたものと考えています。

こうした中での当社線の利用状況でありますが、金沢以西開業後の利用者を含んだ数値での比較ではありますが、全体では前期比+10.7％、内訳として定期外では前期比+21.8％、定期利用者については、通勤では+10.5％、通学では前期比+3.8％でありました。

区　分		平成30年度（コロナ禍前）	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和４年度（前期）増減比	平成30年度（コロナ禍前）増減比
定期外利用者		2,801千人	1,648千人	2,196千人	2,675千人	+21.8％	▲4.4％
定期利用者		6,500千人	5,525千人	5,602千人	5,962千人	+6.4％	▲8.2％
	通勤	2,788千人	2,243千人	2,178千人	2,407千人	+10.5％	▲13.6％
	通学	3,712千人	3,282千人	3,424千人	3,555千人	+3.8％	▲4.2％
計		9,301千人	7,173千人	7,798千人	8,637千人	+10.7％	▲7.1％

この結果、当期の営業収益としては、旅客運輸収入1,183,942千円、鉄道線路使用料収入715,781千円、運輸雑収787,216千円の計2,686,940千円となりました。

一方、営業費用については、金沢以西延伸に伴う開業準備として必要な諸費用が大幅に増加したことから、計2,819,325千円となりました。この結果、営業損益は132,385千円の赤字となりました。

次に、営業外損益については、国や自治体などからの受託工事委託料収入や鉄くず等の工事発生品の売却収入等が合計で204,542千円、受託工事に係る再委託などの費用が178,157千円となり、これらを加算、減算した経常損益は106,001千円の赤字でありましたが、加えて特別利益として9,574,128千円の補助金等の収入を加算し、固定資産圧縮損などの特別損失9,478,632千円を減算した結果、税引前当期純利益は、10,505千円の赤字と縮減し、収支均衡まであと一歩のところであり

ました。法人税を差し引いた当期損失は13,335千円となりました。

収支決算としては、県内全線開業に向けた開業準備経費などが影響し、若干の赤字となりましたが、お客様の安心安全を最優先に、コロナ禍からの人流の回復や県内全線開業を見据え、新たな取り組みにもチャレンジしたところであります。

開業９年目の具体の利用促進の取り組みでありますが、４月２９日に初めて開催した「春の鉄道フェスタ」や、同時期に開催された楽都音楽祭を記念した１日フリーきっぷを企画しゴールデンウイーク最終日の５月７日までに約500枚を販売いたしました。

６月４日に開業以来のご利用者数が7,000万人を達成したことから、７月２８日から８月３１日の期間限定の記念１日フリーきっぷを発売（全日利用可300円）しました。社員のデザインしたイラストがかわいいとの評判もあり、用意した1,500枚をほぼ完売することができました。また併せて記念イベントとして開催した小学生以下を対象とした「親子でんしゃ教室」や、「大人向け車両見学ツアー」を実施しました。加えて夏休みの宿題企画と銘打って「鉄道会社で親子伝統工芸体験（加賀友禅型染め)」を実施したほか、臨時列車の車内において、県立図書館の司書による怪談話の読み聞かせと、金沢工業大学の学生による仮装とプロジェクションマッピングの融合による「真夏の怪談列車」を金沢津幡間で初めて運行いたしました。いずれのイベントも多くの皆様にご参加を頂きました。

１０月はじめには「秋の鉄道フェスタ2023」を春に続き森本駅東広場にて開催いたしました。当日は当社会長であります、馳知事にもご臨席をいただき先に決定した公式マスコットキャラクターの「あいまるくん」の愛称決定と着ぐるみのお披露目を行いました。当日は臨時列車を運行し、多くのお客様にご来場いただきました。

同じく１０月に県内で開催された「いしかわ百万石文化祭」の開催期間に合わせ、当社初の試みとして北陸鉄道の市内バス乗り放題の乗車券と当社線（金沢～倶利伽羅）乗り放題をセットにした「いしかわ百万石文化祭１日フリーきっぷ」を「のりまっし金沢（金沢MaaS)」においてデジタル乗車券を発売いたしました。

３月には、当社線で通学される高校卒業生を対象に、これまでの鉄道利用への感謝と新しい門出を祝福して、東金沢駅、森本駅、津幡駅において当社社員が制作したバルーンアートやメッセージボードを掲示したほか、エアリーフローラ（花）を配布いたしました。

一方、輸送の安全確保の取り組みとして、６月と１０月には隣接する鉄道会社との合同で列車が駅間で故障・停車した場合を想定した列車救援の訓練を行いました。また８月には地元警察・消防の全面協力のもと、列車内に刃物を持った不審者がいるとの想定で訓練を実施しました。加えて１１月には警察・消防と連携して総合事故対応訓練を２部構成で実施しました。１部では地震発生時に列車が脱線したとの想定で、迅速なお客様の救護を目的に、２部では脱線した列車の復旧を目的に実施しました。今後もこうした訓練の機会を通じて、関係機関との更なる連携を深めてまいります。

最後に３月１６日の県内全線開業に向けた取り組みであります。まず運行ダイヤでありますが、３月１５日までのＪＲダイヤから、朝夕の通勤時間帯に８本、新幹線の最終便との接続に１本の計９本の増便を実施すると同時に、金沢駅での同一ホーム接続を大幅に増加したほか、日中の時間帯においては発車時刻が覚えやすいパターンダイヤを導入いたしました。また各駅には運行情報を表示するディスプレイを設置したほか、ＨＰにおいても列車の走行位置や遅延情報が確認できるページを用意し、サイトの見やすさに配慮したリニューアルを行いました。これによりスマホなどの小さな画面でも遅延情報などの確認が容易になりました。加えてＩＣカードやクレジットカードの利用や、定期券が購入できる多機能型券売機を設置するなど利便性の向上にも努めたところであります。

２．対処すべき課題

令和６年３月１６日に金沢～大聖寺間を引き継ぎ、県内全線開業を果しました。倶利伽羅から大聖寺間の64.2ｋｍを経営区間として、沿線の皆様の日常を支える生活交通として、また新たに開業した新幹線小松駅、加賀温泉駅から接続する二次交通としての役割が一層期待されています。これまで以上に県・沿線自治体はじめ他の交通事業者、経済団体とも連携し、輸送の安全を最優先に、利便性の向上、経営の安定化に取り組み、地域の発展・福祉の向上に貢献してまいります。

一方、県内全線開業後の３月１６日から３１日までの利用者数は、県の推計では１日あたり４８，５００人と見込まれ、経営計画における令和６年度の数値と同程度の滑りだしとなっているものの、今後の利用状況を注視しつつ、沿線自治体等で開催されるイベントなどと連携した臨時列車の運行や、企画乗車券の発売などを行い、更なる利用者の増加につながるよう取り組んでまいります。

貸　借　対　照　表

令和 6 年　3 月 31 日 現在

（単位：千円）

科　　目	金　　額	科　　目	金　　額
（資産の部）		（負債の部）	
流　動　資　産	14,578,280	流　動　負　債	11,451,668
現金及び預金	3,325,089	未　払　金	11,061,975
未　収　運　賃	117,155	未　払　費　用	6,988
未　収　金	9,986,009	未払法人税等	13,621
未収還付法人税等	11,803	預り連絡運賃	77,282
未収消費税等	884,490	前　受　運　賃	225,196
貯　蔵　品	190,370	リ　ー　ス　債　務	3,116
前　払　金	25,813	賞　与　引　当　金	50,248
前　払　費　用	35,307	その他の流動負債	13,238
その他の流動資産	2,241		
固　定　資　産	1,094,260	固　定　負　債	252,932
鉄道事業固定資産	1,011,037	退職給付引当金	25,331
建　設　仮　勘　定	71,847	役員退職慰労引当金	1,170
投資その他の資産	11,374	特別修繕引当金	142,129
差入保証金	2,200	圧縮未決算特別勘定	70,443
長期前払費用	9,174	リ　ー　ス　債　務	10,900
		資産除去債務	2,956
		負　債　合　計	11,704,600
繰　延　資　産	6,520	（純資産の部）	
株　式　交　付　費	6,520		
		株　主　資　本	3,974,460
		資　本　金	3,178,000
		利　益　剰　余　金	796,460
		繰越利益剰余金	796,460
		純　資　産　合　計	3,974,460
資　産　合　計	15,679,061	負債・純資産合計	15,679,061

損　益　計　算　書

自　令和　5 年　4 月　1 日
至　令和　6 年　3 月 31 日

（単位：千円）

科　　目	金　　額	
鉄　道　事　業		
営　業　収　益		2,686,940
営　　業　　費		2,819,325
営　業　損　失		132,385
営　業　外　収　益		
受託工事収入	189,341	
受　取　利　息	149	
雑　　収　　入	15,051	204,542
営　業　外　費　用		
受託工事支出	176,211	
株式交付費償却	1,713	
雑　　損　　失	233	178,157
経　常　損　失		106,001
特　別　利　益		
補　　助　　金	9,560,892	
固定資産売却益	13,236	9,574,128
特　別　損　失		
固定資産圧縮損	9,478,632	9,478,632
税引前当期純損失		10,505
法人税、住民税及び事業税	2,829	2,829
当　期　純　損　失		13,335

株 主 資 本 等 変 動 計 算 書

自　令和　5年　4月　1日
至　令和　6年　3月　31日

（単位:千円）

	株主資本				純資産合計
	資本金	利益剰余金		株主資本合計	
		繰越利益剰余金	利益剰余金合　計		
令和5年4月1日残高	2,006,000	809,796	809,796	2,815,796	2,815,796
事業年度中の変動額					
新株の発行	1,172,000			1,172,000	1,172,000
当期純利益		△13,335	△13,335	△13,335	△13,335
事業年度中の変動額合計	1,172,000	△13,335	△13,335	1,158,665	1,158,665
令和 6年3月31日残高	3,178,000	796,460	796,460	3,974,460	3,974,460